



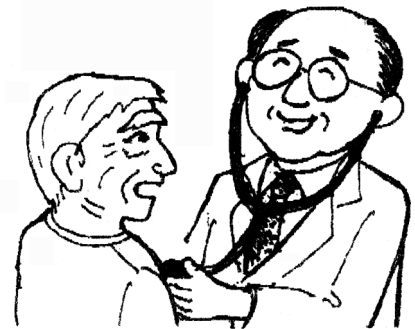
住民が支える地域医療・・・八丈の医療のさらなる充実をめざして

地域の中核病院の閉鎖、診療科目の減少、産婦人科・小児科の医師不足、救急患者のたらい回し、医療事故など、テレビや新聞で医療関連の報道を見るたびに、離島というハンディを背負った八丈町の医療確保の重要性を感じています。

八丈の現状は 今や、医療機関に恵まれた都会でも、救急患者が何ヶ所も断られ、命を落とすことも少なくありません。幸い八丈町では、救急患者は救急車で町立病院に搬送され、特に急を要する症例では、救急ヘリを要請し島しょの中核病院である都立広尾病院に搬送される態勢が来ています（年間出動回数約30）。病院に着くまでの時間がかかるのが難点ですが、受け入れ態勢を確認の上、医師が付き添うので、安心感があります。受け入れ病院との連携はとれていますが、ヘリ要請の手続きの簡素化、迅速化など、患者の立場になって一刻でも早く搬送できるよう改善が望まれます。

町立病院では一部手術も行なわれていますが、医師不足の原因といわれる「臨床研修制度」がすすめば、医療はますます細分化され、環境が整った病院でなければ手術はしない、という医師が出てくる可能性もあります。私は約20年前に町立病院で帝王切開の手術を受け、無事出産しました。設備もスタッフも万全とはいえない条件でよく対応してくれたと感謝しています。

数年前に、小児科の医師が町の職員となり定着したことで他地域にはない恵まれた環境が生まれました。産婦人科についても安定的に医師が確保されています。少子化や人口減少が叫ばれる中、安心して出産し子育てができる環境が整っているので、里帰り出産の奨励や近隣の島への呼びかけなど、もっと島の内外に発信していいと思います。



他の島では 伊豆大島では、4年前に、これまでの公立診療所を統合して公設民営の「大島医療センター」ができました（ベッド数19床）。個人病院は1つです。利島、新島、神津島、三宅島、御蔵島、青ヶ島、小笠原には診療所があり、利島を除くすべての島に病床（1～10）があります。しかし、54床のベッド数や診療科目の豊富さでは八丈は群を抜いています。さらに個人病院も2医院あります。常設の歯科医院についても、大島が4医院、神津島と三宅は1医院、他の島は巡回診療で対応しているのに対し、八丈では6つの歯科医院があります。また、人工透析ができるのは、神津島（5床）、大島（10床）と八丈（8床）だけです。

住民の期待に応えるために 一方、早急に解決しなければならない課題は山積みです。毎年1億円以上の赤字を出している病院の経営、準備の途中で実現しなかった療養型病床、眼科をはじめ、皮膚科や耳鼻咽喉科がないこと、医師の短期間交代、医師や看護師の欠員、設備の充実などです。特に眼科については議会でもたびたび要望していますが実現していません。住民や患者から寄せられる不満や要望にも対応が迫られています。

八丈の医療レベルを維持し、さらに充実させていくためには、住民が信頼を寄せ、そして住民の期待に応える病院にしなくてはなりません。時に厳しく問題点を指摘することは必要ですが、同時に日本の医療の現実を理解し、病院の存在意義を忘れず協力することも大切だと思います。その信頼こそが、医師やスタッフのやる気を引き起こす原動力になるからです。私は、現在年2回の病院運営協議会の回数を増やし、ネット上で質問・疑問に答える相談コーナーを設けるなど、患者と病院が互いに信頼関係を築けるような仕組みづくりが必要だと考えています。

八丈富士のノヤギ駆除はじまる

.....小笠原視察で得たもの

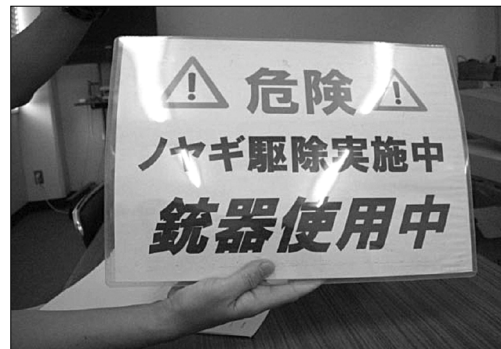
八丈小島のヤギ駆除で明らかのように、島外から持ち込まれた動物による被害は年々深刻になっていて、伊豆諸島の他の島も共通の悩みを抱えています。それぞれで駆除が実施されてきましたが、今年度からそうした有害鳥獣の駆除事業「島しょ農作物獣害防止緊急対策事業」が東京都の補助事業として各島で始まります。大島(台湾ンサル・台湾リス)・新島(シカ)・八丈島(ヤギ)など、被害の状況や駆除対象となる種類は異なりますが、5年間で対象動物の撲滅を図ることを目的としています。今回の駆除事業は農協に委託されます。

小笠原視察 これに先立ち、八丈町ノヤギ対策協議会(以下協議会)では、今もヤギ駆除を続けている小笠原諸島を視察することになりました。人が住んでいる父島でどのように駆除を実践しているのか、その方法を知るためです。6月19~24日、私は協議会の委員3名とともに小笠原親善訪問団の一員として出かけました。視察場所は、支庁・村役場・都保健所・ビジターセンター・自然環境研究センター・被害農家数軒、それにヤギが出没する数ヶ所でした。ヤギの出没しそうな場所を求めて、炎天下に山登りもしました。視察を通して、村のヤギ駆除に対する考え方が浮き彫りになりました。

村の取り組み 村では、ヤギの駆除に銃器を使用するため、観光客や住民への影響がでないよう様々な配慮がなされていました。①村民だよりに日程を掲載する ②防災無線で知らせる(駆除の前日の夕方と当日の朝の2回) ③小笠原丸が入港している間は観光客がいるので行かない、などです。このほかメインストリートの店舗のあちこちに設置されたビデオには小笠原の自然やヤギ駆除の様子が繰り返し映し出されていました。住民はこの事業の意義を理解し、当然のように受け止めていることを実感しました。

実施にあたっては、役場・支庁・猟友会から2名ずつ、それに警察も加わり、常に7~8人のチームを組みます。安全を第一に考え、慎重に行い、ヤギに苦痛を与えない工夫もされています。実践方法は細かくマニュアル化されていました。

八丈町の計画は 小笠原の方法が、そのまま八丈富士のノヤギ対策に適用できるものではありませんが、長年の実績に基づいた駆除に対する考え方や方法は大いに参考になりました。町は、まず、山の上にいるノヤギが里に降りてこないよう、9月から鉢巻道路に防護柵を設置します。生活圏に近い場所での駆除は簡単ではありません。住民の理解を得たうえで、事故のないよう細心の注意が払われなければなりません。同時に、5年という長い期間の大きな事業なので、最少の年数と費用でこの駆除事業が終了するよう、議会も監視し、同時に協力していく必要があります。





2008年6月議会 一般質問

<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>



1. 町職員・議員における出張旅費の削減について

今どの自治体でも限られた税収の中で歳出削減に努力をしています。思い切った削減策や独自策に取り組んでいる自治体にならって、旅費の経費節減を提案したいと思います。出張旅費のなかの宿泊費については、これまでの職務段階で決められている1日11,000円(主任・主事)～15,000円(町特別職、議員)の支給を一律10,000円にし、経費削減につとめるべきだと思いますが、町のお考えを伺います。

総務課長 宿泊費については、都に習い、職務段階に応じて宿泊費を支給しているが、適正な金額であり厳正に執行しているため、引き下げる考えはない。

幸子 八丈町より財政事情が厳しい青ヶ島では、一律9,000円で改革をすすめ、都に評価された経緯があります。少しでも、経費削減に努力すべきだと思いますが、現状のままでいいとお考えでしょうか。

総務課長 議員の皆さんの同意があった場合は、削減策を考えていきたい。

町長 島には島の政治的事情があり、その辺を理解して発言してもらいたい。

2. 合併浄化槽処理費用の適正化を望む

3月、4月の町の広報に、浄化槽法が改正され、指導に従わない場合は罰則規定が設けられたという内容のお知らせがありました。法定検査義務化の根拠や料金設定について、住民への説明が十分でないと考えます。

住民課長 義務化の背景には、従前から行なわれている法定検査の受検率が低いことで指導監督権限が加わった経緯があります。住民への説明については、広報はちじょうでの掲載と使用者への直接の説明を続けていきます。

幸子 合併浄化槽を設置している世帯の場合、年に3回の保守点検で13,500円と年1回の浄化槽清掃に19,000円にかかりますが、これを遵守しきちんと納税していれば浄化槽清掃に対して9,000円の町の補助が受けられます。この合計額23,500円に、消費税1,175円と法定検査料5,500円を加えると総額30,175円になります。しかし、この料金は高齢者の一人暮らしや、島外病院での長期入院などで使用頻度が少ない場合や、環境に配慮してきれいに使っている場合でも、5人槽で同一料金になっています。公平性を欠く仕組みだと思いますが、町のお考えを伺います。



住民課長 経費負担軽減は、まず維持管理の推進を優先させていきたいと考えます。公平性については、あくまでも浄化槽法をもとに実施していることであり、八丈町だけ運用で回数を減らすということではできません。この仕組みを住民に理解していただくようつとめていきます。

自主的意見調整としての全員協議会（全協）

議会の前後に開かれることが多い全協。正式な議会ではないので法的裏づけはありません。目的は、(1) 本会議関連の協議 (2) 町村長が意見を聞くための協議 (3) 自主的意見調整の協議ですが、八丈の場合はほとんどが(1)と(2)です。議員同士の自由な議論を希望していた私は、執行部の入らない全協の開催つまり(3)の全協を議長に申し出ました。そして、7月16日の臨時議会の後に話し合いがもたれました。



最終便の出発時刻変更について 全日空は町に対して、7、8月は最終便を20分早め、9、10月については15分早めると伝えてきました。住民からは通院などの上京時に日帰りが出来なくなる、仕事を終えて直行しても最終便に間に合わない、など苦情が寄せられていました。不便になった変更措置を元に戻してほしいという点で議員の意見が一致し、議長と経済企業委員長に折をみて全日空に交渉に行くよう要望しました。

町職員・議員における出張旅費の削減について 私が一般質問したテーマ（前頁参照）で、町は議員が同意すれば削減策を考えると回答したので、議員の意向を尋ねました。

まず、「この内容は議員の同意をえてから提案すべきもので、一般質問はなじまない」と指摘されました。また、「町の職員は、予算獲得のため何度も上京するので職員の旅費は削減すべきでない」「議員も同様に時間を割いて上京するので削減は困難だ」「島しょ会館以外の宿泊だと不足する」「上京時は経費がかかる」など色々な意見がありました。結局、出席議員の中で、宿泊費の削減に賛成する声はほとんどありませんでした。

しかし、なじまないとは言え、議会運営委員会です承された上で行なった一般質問ですし、決して潤沢とはいえない町の財政事情にあって、職員・議員は経費を削減する努力をすべきだと思います。なかでも議員はその手本を示すべき存在ではないでしょうか。今後もこうした改革案は出していこうと思いますが、今回互いに本音で議論ができたことは収穫だと思っています

ちなみに、他の島の宿泊費、日当、車賃は職務段階に応じて以下のとおりです。

八丈町 11,000～15,000円、1,200～2,000円、1,400～2,000円（主任・主事～町特別職・議員）

大島町 12,000～13,000円、1,500～2,000円、1,600～2,000円（主任・主事～町特別職・議員）

三宅村 10,000～13,000円、1,500～2,000円、1,400～1,800円（主任・主事～町特別職・議員）

編集後記

原油高騰や地球温暖化への危機感で、地産地消が注目されています。八丈でも、「島の生活ガイド」というフリーペーパーがスーパーなどに置かれていて喜ばれています。先日は、「魚の地産地消・高知宿毛市／東京八丈町」というタイトルで、八丈町の漁協女性部の活躍ぶりが新聞に取り上げられていました（朝日、8月21日朝刊）。地元産魚の加工品は数年前から学校給食に取り入れられていましたが、島内だけでなく、都全域の小中学校にも出荷しているという頼もしい内容でした。漁協も学校給食も島の地産地消の先頭をきっています。八丈牛乳も頑張っています。“島みんなが、島でつくったもの・島でとれたものを食べる”そんな生活習慣を身につけていきたいものです。

さちこのニュースレター
第三号／二〇〇八年九月
編集・発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子